

筋ジストロフィーの 摂食嚥下リハビリテーション

～患者さんの希望を実現する関わり～

リハビリテーション科
言語聴覚士 佐藤 匠



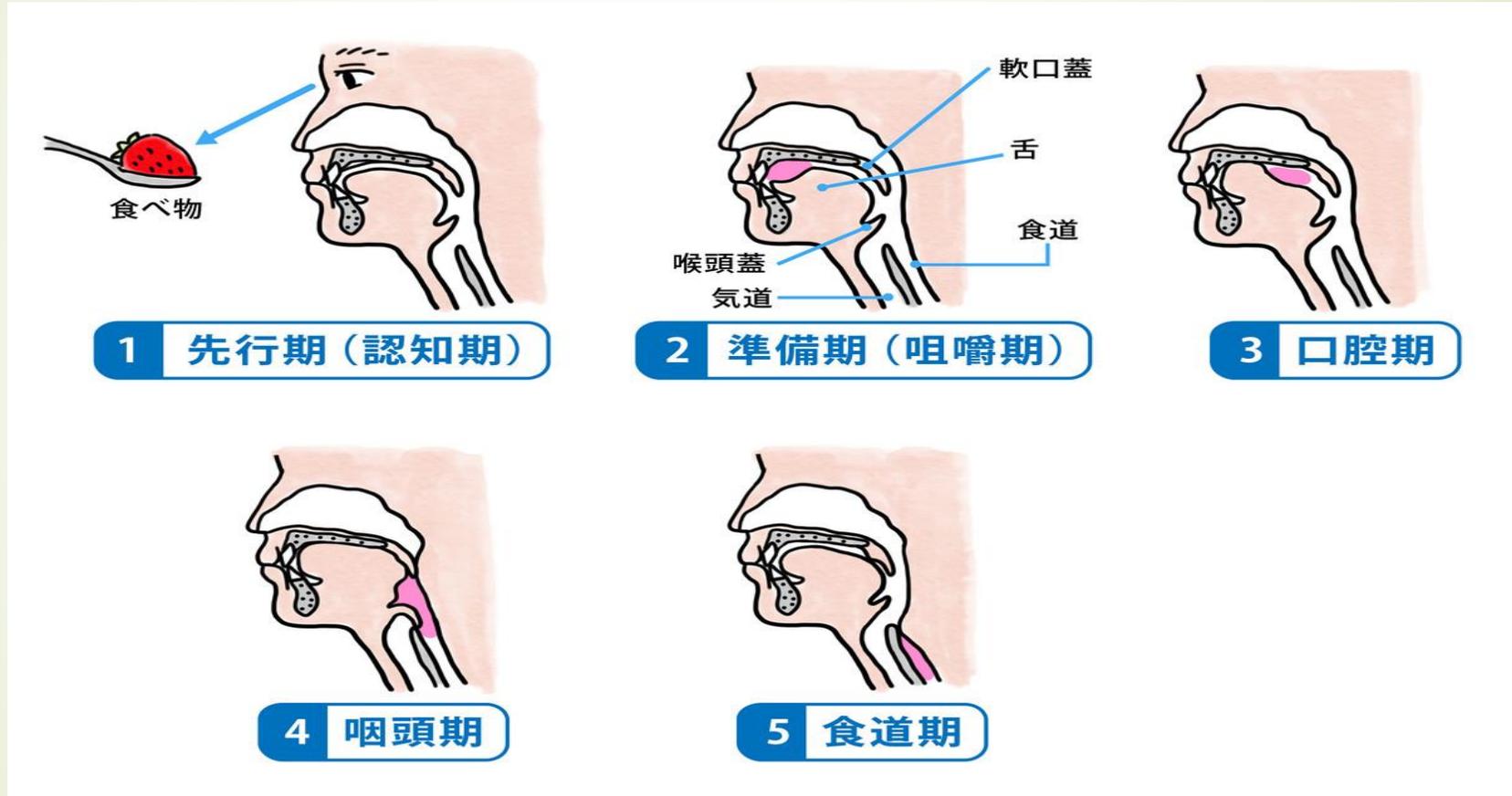
言語聴覚士について



- 病気や事故、加齢、生まれつきの要因によりことばによるコミュニケーションが困難となった方、食べること・飲む込むことが難しい方に対してリハビリを行います。
- 当院の神経筋疾患病床は116床。
- 当院の言語聴覚士は筋ジストロフィー患者さんに定期的に介入しています。



摂食嚥下機能とは



どの段階に問題があっても「摂食嚥下障害」が生じる



臨床場面での実際

- 食事中の咽せ
- 痰の増加・痰に食物が混じる
- 声の変化（食事中や食後にがらがら声）
- 食事内容の変化（柔らかい物を好む）
- 食欲低下、体重減少



摂食嚥下障害の検査

▶ 当院では…

①簡易検査

唾液飲みテスト、水飲みテスト、食物テスト

②嚥下造影検査（VF）

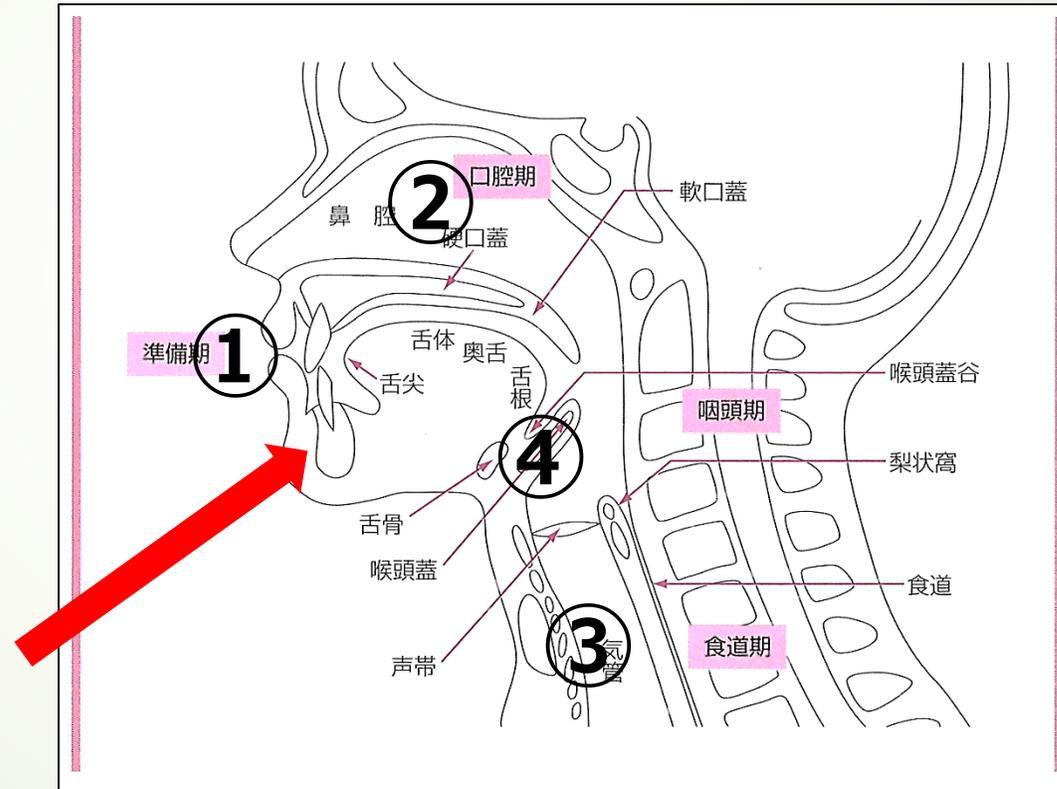
X線透視下で造影剤入りの検査食を飲み込み、食物の流れや誤嚥、不顕性誤嚥の有無を見る

③嚥下内視鏡検査（VE）

ファイバースコープで器官の動きを観察

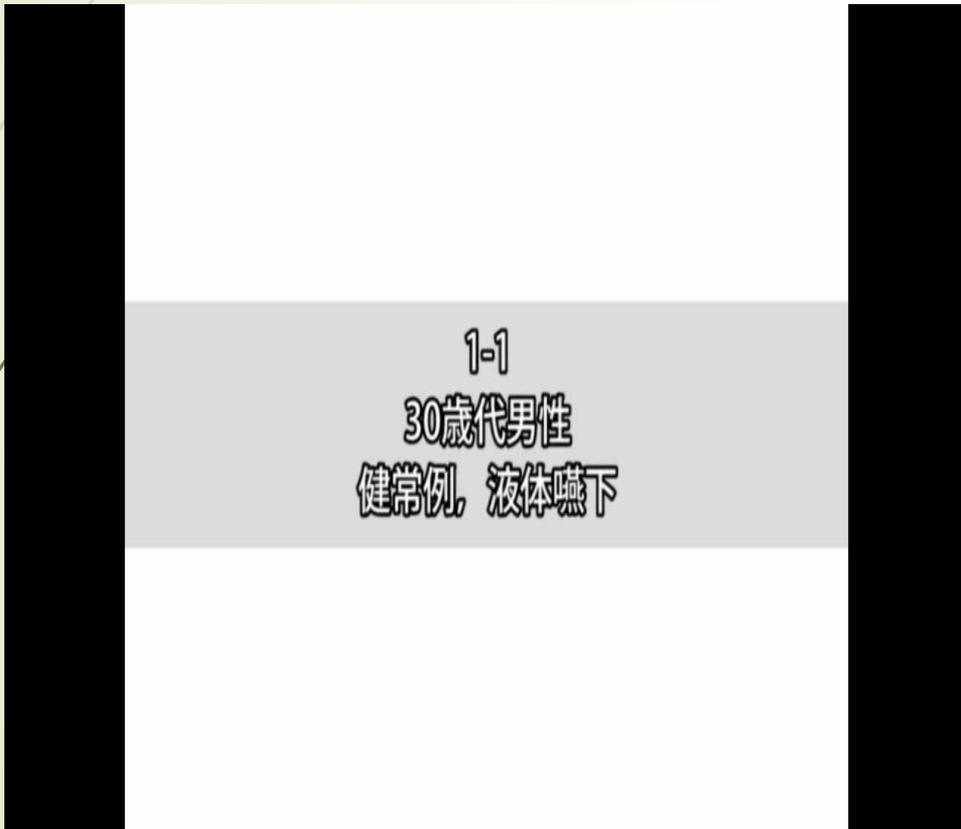


嚥下に関する器官の構造



嚥下造影検査

30代健常男性



20代デュシャンヌ型
筋ジストロフィー男性



食事へのアプローチ①

①飲み込みやすい食事形態を提案

⇒水分にとろみをつける

⇒食べ物を柔らかくする

⇒おかずを小さめにカットする

②飲み込みやすい姿勢の提案

⇒車椅子やベッドに

寄り掛かかれる姿勢

⇒顎を引いたような楽な姿勢



食べることが大変になると…

➡ 食事・水分を必要な量、安全に摂取することが難しくなった場合

⇒ 経管栄養(経鼻胃管、胃瘻)が検討される

➡ 適切な時期に栄養チューブを留置することが重要

⇒ 十分な栄養が確保できるだけでなく、

「食べなくてはならない」という

ストレスが軽減できる



楽に楽しく食べるために



よくある誤解：

経管栄養＝「もう口から食べられない」

⇒そういう場合もあるけれど…

⇒飲み込みの問題が少なければ、

『食べたいものを食べられる量だけ楽しむ！』

カップ麺・ケーキ
アイスなど



食事へのアプローチ



その他に…

◆摂食嚥下訓練：

食事に制限のある方に、安全に配慮しながら食べる練習/楽しみの維持を図る

◆食事に関する相談・指導：

「食べたい」「食べさせたい」の気持ちに寄り添いながら提案、調整を行う



実際に行ったこと

- Aさん：デュシェンヌ型筋ジストロフィー
在宅で主栄養は胃ろう栄養を行いながら、
お楽しみでプリンを食べたり、コーヒーを
飲んだりされていた方。
- 心不全による体調悪化、気管切開を行い
唾液も飲み込みにくくなった。



本人の希望

- 心不全の治療のため水分制限が必要であった。
Aさん「喉が渴いて苦しい。水だけでも飲みたい」
Aさん母「本人の希望通り飲ませてあげたい」

→ご希望を叶えるために摂食嚥下訓練実施。



摂食嚥下訓練

- 少量ずつ量を計って行うためにシリンジを使って飲む練習を実施。本人の好みであり、吸引時に色が分かりやすいコーヒーを使用。安全に配慮して吸引を行う。安全に飲みこめていることを確認したら少しずつ量を増やしていく。



摂食嚥下訓練から実現できたこと



- 1口2cc、3cc、5ccと少しずつ量を増やしていき、3ヶ月後には20分で50cc摂取できるようになった。一口量が増えているためストローでの評価を行い、飲めていることを確認した。
- 現在は主治医に確認した水分量をストローを使ってお茶やカフェラテを飲んだり、口の中で溶けるケーキのクリームを行事食で食べることができている。



Aさん、Aさん母の言葉

Aさん「飲めてよかった。
飲めないときは苦しかった」

Aさん母「今は飲めるようになって満足です」

→患者さんの希望を達成できた。
病棟生活の質の改善に関わることができた。





■ Bさん：「ストローが使えなくなってきた。何か良い方法はないですか？」

シリンジを使ってジュース・スープなどを飲むことができるようにする。



■ Cさん：食事が飲み込みにくくなってきた方に飲み込まずとも食べ物を咀嚼した後に口から出して、味・食感を楽しんでいただく。

→ 「吐き出せばいろんな物が食べられる。」



ラーメンの日



- ➡ Dさん：「**麺が食べたい**」ペースト食を食べているが、月1回麺を刻むことやスープにとろみをつけるなど工夫をして少量ラーメンを食べる。
- ➡ Eさん：食事は食べておらず、水分のみ摂取されている方も、栄養管理指導室よりラーメンスープを用意していただいて、飲んで楽しんでいただく。
→ 「**たまにはしょっぱいのがうれしい**」



まとめ

生活の質(QOL)を保ちながら生きていくために

- ◆ 食べること、味わうこと
- ◆ 「食べることは生きること」

主治医や担当の言語聴覚士
に相談ください☆



参考文献・資料

- DVDで学ぶ神経内科の摂食嚥下障害：
野崎園子・市原典子 編著
- 食事時間が待ち遠しくなる嚥下食の提供を目指して：
嚥下食ドットコム
監修・指導／金谷 節子（金谷栄養研究）所所長）
協力／栢下 淳（県立広島大学 教授）
江頭 文江（地域栄養ケアPEACH厚木代表）

